(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2008-206912
(P2008-206912A)
(43)公開日　平成20年9月11日(2008.9.11)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
A47L 13/258 (2006.01)	A47L 13/258	3B074

審査請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 7 頁）

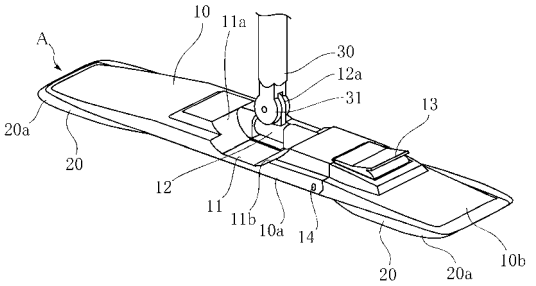
(21)出願番号　特願2007-48790(P2007-48790)
(22)出願日　平成19年2月28日(2007.2.28)

(71)出願人　000133928
株式会社テラモト
大阪府大阪市天王寺区松ケ鼻町４番４４号
(74)代理人　100086380
弁理士　吉田　稔
(74)代理人　100103078
弁理士　田中　達也
(72)発明者　吉田　嘉宏
大阪市西区立売堀３丁目５番２９号　株式会社テラモト内

Ｆターム(参考)　3B074 AA07　AA08　AB01　AB04　AC03
EE01

(54)【発明の名称】モップヘッド

(57)【要約】
【課題】モップ材の位置ずれを防ぐことができ、これにともなって、傷んだり騒音を起こしたりしにくいモップヘッドを提供することを課題とする。
【解決手段】本発明によって提供されるモップヘッドＡは、平面視略長方形を有したモップ材支持板１０を備えており、このモップ材支持板１０は、その長手方向寸法の半分以上を占める主部１０ａに対して、長手方向の残部からなる副部１０ｂが折り曲げ可能に連結されており、このモップ材支持板１０の長手方向両端部がモップ材の基布上面の両端に設けられたポケットに挿入されてモップ材が支持され、モップ材支持板１０の両端部における幅方向両側縁には、上記ポケットの内部においてこのポケットを幅方向に突っ張るフランジ部２０が一体形成されていることを特徴とする。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
平面視略長方形を有したモップ材支持板を備えており、このモップ材支持板は、その長手方向寸法の半分以上を占める主部に対して、長手方向の残部からなる副部が折り曲げ可能に連結されており、このモップ材支持板の長手方向両端部がモップ材の基布上面の両端に設けられたポケットに挿入されてモップ材が支持されるモップヘッドであって、
上記モップ材支持板の両端部における幅方向両側縁には、上記ポケットの内部においてこのポケットを幅方向に突っ張るフランジ部が一体形成されていることを特徴とする、モップヘッド。
【請求項２】
上記フランジ部は、上記モップ材支持板の長手方向中央部の幅方向側面よりも幅方向外方に突出している、請求項１に記載のモップヘッド。
【請求項３】
上記フランジ部は、上記モップ材支持板の長手方向端部に向うほど幅方向突出量が減少する突出量漸減部を有しており、この突出量漸減部は、ラウンド部を介して上記モップ材支持板の長手方向両端部に至っている、請求項２に記載のモップヘッド。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、床面の清掃などに用いられる清掃具において、拭き取り用のモップ材や雑巾などを保持するモップヘッドに関する。
【背景技術】
【０００２】
このようなモップヘッドの一例として、特許文献１に記載されている雑巾支持具が挙げられる。この雑巾支持具はその両端を雑巾の両端に形成されたポケットに挿入することによって、雑巾を支持している。図７には、上記雑巾支持具と同様の構成のモップヘッドＸにモップ材Ｙを取り付けた状態を斜視図で示している。図７に示すように、モップヘッドＸは、平面視略長方形に形成されており、その長手方向の適所で折り曲げ可能なモップ材支持板９１０を備えている。雑巾Ｙの上面の長手方向の両端にはポケット９４２が設けられている。
【０００３】
モップ材支持板９１０を折り曲げると、モップ材支持板９１０の長手方向の両端部をポケット９４２に挿入することができる。その後、モップ材支持板９１０を真っ直ぐに戻すと、モップ材支持板９１０が長手方向に突っ張り、ポケット９４２から抜けなくなる。このため、モップヘッドＸは雑巾Ｙを支持することができる。
【０００４】
しかしながら、このようなモップヘッドＸにおいては、モップ材支持板９１０におけるポケット９４２に挿入された両端部が突っ張ることによって雑巾Ｙを保持するように構成されていたため、モップ材支持板９１０の幅方向寸法とポケット９４２の幅方向寸法との関係についてはあまり検討されてこなかった。そのため、モップ材支持板９１０とポケット９４２との間には幅方向の余裕が生じることがあり、モップ材支持板９１０がポケット９４２内を幅方向に位置ずれすることがあった。清掃時において、雑巾Ｙは、水などを吸って重くなっており、さらに、床面との摩擦もあるため、モップ材支持板９１０に比べて床面に対して移動しにくくなっている。このため、モップヘッドＸを前方に押したとき、モップ材支持板９１０の側縁９１０ａが雑巾Ｙよりも前方に突出し、壁などにぶつかることがあり、それが原因で壁などを傷つけたり、モップ材支持板９１０が損傷することがあった。また、モップ材支持板９１０の側縁９１０ａが壁などにぶつかると、衝突音が生じる問題もあった。
【０００５】
【特許文献１】実開昭６２－１５５７５６号公報

【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
本発明は、上記した事情のもとで考え出されたものであって、モップ材の位置ずれを防ぐことができ、これにともなって、傷んだり騒音を起こしたりしにくいモップヘッドを提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明によって提供されるモップヘッドは、平面視略長方形を有したモップ材支持板を備えており、このモップ材支持板は、その長手方向寸法の半分以上を占める主部に対して、長手方向の残部からなる副部が折り曲げ可能に連結されており、このモップ材支持板の長手方向両端部がモップ材の基布上面の両端に設けられたポケットに挿入されてモップ材が支持されるモップヘッドであって、上記モップ材支持板の両端部における幅方向両側縁には、上記ポケットの内部においてこのポケットを幅方向に突っ張るフランジ部が一体形成されていることを特徴とする。
【０００８】
このような構成によれば、モップ材の上記ポケットと上記モップ材支持板との幅方向の隙間を上記フランジ部によって埋めることができ、上記モップヘッドを前方に押した場合に、上記モップヘッドと上記モップ材とがずれにくくなっている。このため、上記モップ材の中央部よりも上記モップ材支持板の中央部の側縁が前方に突出することがなく、上記モップ材支持板が直接壁などにぶつかる前に上記モップ材がぶつかるようになっている。上記モップ材は通常布などで形成されているので、このモップ材が壁などにぶつかっても衝撃や衝突音は緩和される。したがって、上記モップヘッドは傷みにくく、さらに、清掃中に騒音も起こりにくくなっている。
【０００９】
好ましい実施の形態においては、上記フランジ部は、上記モップ材支持板の長手方向中央部の幅方向側面よりも幅方向外方に突出している。このような構成によれば、上記モップヘッドを押して壁などにぶつけてしまった場合、上記モップ材支持板よりも先に上記フランジ部が壁などにぶつかるようになっている。このフランジ部は、上記ポケット内に挿入されているので、壁などに直接当たることがない。したがって、より確実に上記モップ材支持板が壁などに直接当たることを防ぐことができる。
【００１０】
さらに、好ましい実施の形態においては、上記フランジ部は、上記モップ材支持板の長手方向端部に向うほど幅方向突出量が減少する突出量漸減部を有しており、この突出量漸減部は、ラウンド部を介して上記モップ材支持板の長手方向両端部に至っている。このような構成によれば、上記フランジ部が途中で途切れて角が出来たりせず、滑らかな形状となる。このため、上記モップ材支持板を上記ポケットに挿入したり引き抜いたりする際にひっかからずスムーズに挿入したり引き抜いたりすることができる。
【００１１】
本発明のその他の特徴および利点は、添付図面を参照して以下に行う詳細な説明によって、より明らかとなろう。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１２】
以下、本発明の好ましい実施の形態につき、図面を参照して具体的に説明する。
【００１３】
図１には、本発明に係るモップヘッドの斜視図を示している。図２には、図１のモップヘッドＡを平面図で示している。図３には図２のIII-III線に沿う断面図の一部を示している。図４にはモップ材Ｂの平面図を示している。図５にはモップヘッドＡにモップ材Ｂを取り付けた様子の一部を平面図で示している。図６は図５のVI-VI線に沿う断面図である。モップヘッドＡは、モップ材支持板１０と、フランジ部２０とを備えており、柄体３

０に連結されている。ただし、図２では柄体３０を省略している。モップ材Ｂは、基布４０と、拭き取り片４１と、ポケット４２とを備えている。

【００１４】

モップ材支持板１０は、平面視略長方形状に形成されており、主部１０ａと副部１０ｂとで構成されている。このモップ材支持板１０の長手方向の両端縁と側縁とはラウンド部によって連結されており、長方形の各頂点に相当する部分は丸みを帯びている。主部１０ａは、凹部１１、回動部材１２、および支軸１４を備えている。一方副部１０ｂは、係止部材１３と、係止部材１３のモップ材支持板１０の長手方向に沿う移動を規制する規制部材１５とを備えている。主部１０ａと副部１０ｂとの境界は、モップ材支持板１０の中央から、モップ材支持板１０の長手方向の一方の端部寄りに偏った位置に設けられている。主部１０ａは、モップ材支持板１０の中央部を含み、モップ材支持板１０の長手方向の他方の端部から上記境界までの部分である。一方、副部１０ｂは、上記境界とモップ材支持板１０の長手方向の一方の端部との間の部分である。このモップ材支持板１０は、軽量化のためにその大部分が中空に形成されており、適所に床面に向って延びるリブ１６（図３および図６参照）が設けられている。

【００１５】

凹部１１は、モップ材支持板１０の長手方向の中央部の上面に配置されており、この凹部１１における、モップ材支持板１０の長手方向に沿う両端に内方が低くなるように傾斜する斜面１１ａ，１１ｂに形成されている。回動部材１２は、斜面１１ａ，１１ｂを繋ぐようにして、モップ材支持板１０の長手方向の軸（図示略）を中心として前後方向に回動可能に設けられている。この回動部材１２は、柄体３０を取り付けるための連結板１２ａを備えている。

【００１６】

図３には、モップ材支持板１０の副部１０ｂが主部１０ａに対して下方に回動させた状態を仮想線で示している。係止部材１３は、モップ材支持板１０の長手方向に沿う一方の端部に爪部１３ａを備えている。この爪部１３ａは、主部１０ａの端部上面に引っかかるように形成されており、副部１０ｂが回動するのを防いでいる。この係止部材１３の他方の端部に一定以上の力を加えると、爪部１３ａが主部１０ａから一時的に離間し、係止部材１３を規制部材１５周りに所定角度回動させることが可能となる。したがって、係止部材１３を操作することによって、主部１０ａと副部１０ｂとを固定状態から支軸１４周りに回動可能状態へと切り替えたり、逆に、回動可能状態から固定状態へ切り替えたりすることができる。

【００１７】

フランジ部２０は、所定の厚みを有しており、図２に示すように、モップ材支持板１０の長手方向両端寄りの両側縁に、モップ材支持板１０の幅方向に突出するように設けられている。このフランジ部２０によって、モップヘッドＡの幅方向の寸法は、中央部より両端付近のほうが長くなっている。また、モップ材支持板１０の長手方向の両端縁には、フランジ部２０は形成されていないか、あるいは、ごくわずかに突出するように形成されている。上記ラウンド部およびその近傍に形成されるフランジ部２０は、その突出量がモップ材支持板１０の長手方向端部に向うにつれて徐々に減少する突出量漸減部２０ａとなっている。このような突出量漸減部２０ａを設けることで、フランジ部２０は終始滑らかな形状となっている。

【００１８】

柄体３０は、回動部材１２の連結板１２ａを挟み込むように設けられた一対の連結板３１を備えている。連結板１２ａと連結板３１とは、モップ材支持板１０の幅方向に延びる軸を中心として、モップ材支持板１０の長手方向に沿って回動可能なように連結されている。したがって、モップヘッドＡは柄体３０の先端に、自在に向きを変えることができるように連結されており、清掃する際に便利である。

【００１９】

モップ材Ｂは、図４に示すように、長矩形状の基布４０と、基布４０の側縁ないし下面

に設けられた多数のループ紐状の拭き取り片４１とで構成されている。さらに、基布４０の長手方向の両端における上面にはポケット４２が形成されている。ポケット４２は、略長方形状の布の端縁を基布４０に縫い付けることで形成されており、基布４０の長手方向における中央に向けて開放されている。２つのポケット４２には、モップヘッドＡの長手方向の両端がそれぞれ挿入されることにより、このモップヘッドＡに装着される。このモップ材Ｂは、モップヘッドＡに取り付けられ、拭き取り片４１によってゴミを拭き取ることができる。

【００２０】

モップヘッドＡとモップ材Ｂとは、互いに組み合わせて用いられるので、互いの外形寸法が同程度になるように形成されている。具体的には、モップ材Ｂの基布４０の長手方向寸法は、モップ材支持板１０の長手方向寸法よりわずかに長くなっている。さらに、フランジ部２０におけるモップヘッドＡの最大幅がポケット４２の内側の幅とほぼ同一となっている。フランジ部２０が形成される範囲は、モップ材支持板１０の側縁のうちポケット４２に挿入される部分と一致しているのが好ましい。ただし、厳密に一致していなくても、本発明の効果を得ることは十分可能である。

【００２１】

次に、モップヘッドＡの作用について説明する。

【００２２】

このような構成のモップヘッドＡは、図３の仮想線で示すように主部１０ａと副部１０ｂとを折り曲げると、主部１０ａおよび副部１０ｂの端部を、それぞれポケット４２に容易に挿入することができる。その後、主部１０ａと副部１０ｂとを図３の実線で示す位置に戻し、係止部材１３によって主部１０ａと副部１０ｂとを固定する。このようにすると、モップヘッドＡにモップ材Ｂを装着することができる。主部１０ａと副部１０ｂとを固定しておくと、モップ材支持板１０の長手方向の両端がそれぞれポケット４２から抜けなくなる。したがって、モップ材Ｂはモップヘッドに容易に装着可能であり、装着後は係止部材１３を解除しない限り容易には外れなくなっている。

【００２３】

さらに、図６に示すように、モップヘッドＡにおいては、フランジ部２０がポケット４２の内側で幅方向に突っ張るように形成されている。このため、柄体３０を持ってモップヘッドＡを前方に押したときに、ポケット４２内部でモップヘッドＡの位置がずれることがない。ただし、モップヘッドＡの中央部においては、モップヘッドＡとモップ材Ｂとの間にずれが生じることがある。しかしながら、モップヘッドＡは、長手方向の両端付近が中央部よりも幅方向に突き出すように形成されているので、モップヘッドＡの中央部が長手方向の両端付近よりも先に壁面などにぶつかることはない。モップヘッドＡの長手方向の両端付近はポケット４２に収納されているので、壁にぶつかったとしてもモップ材Ｂによって衝撃が緩和される。したがって、モップヘッドＡは傷つきにくく、さらに、衝突音が発生しにくくなっている。

【００２４】

本発明に係るモップヘッドは、上述した実施形態に限定されるものではない。本発明に係るモップヘッドの各部の具体的な構成は、種々に設計変更自在である。たとえば、上記実施形態においては、フランジ部２０がモップ材支持板１０の幅方向の両端縁に設けられているが、一方の側縁にのみ形成されていてもよい。また、フランジ部２０が非連続に設けられている場合も本発明の範囲内である。

【図面の簡単な説明】

【００２５】

【図１】本発明に係るモップヘッドの実施形態の一例を示す斜視図である。

【図２】図１モップヘッドの平面図である。

【図３】図２のIII-III線に沿う要部断面図である。

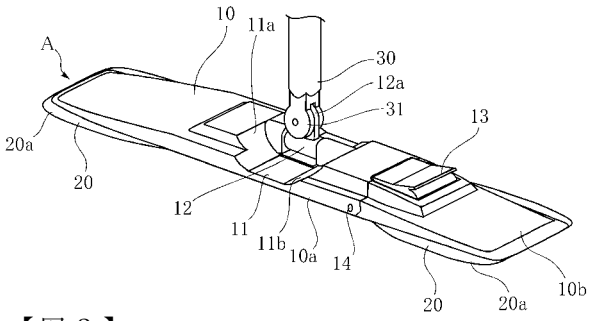
【図４】本発明に係るモップ材の一例を示す平面図である。

【図５】図１のモップヘッドと図４のモップ材とを連結した様子を示す要部平面図である

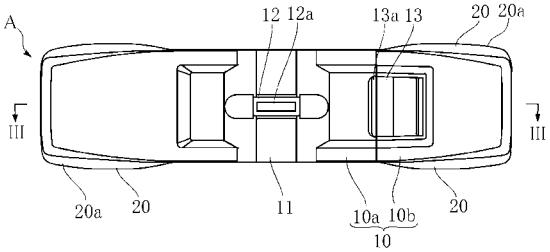
。
【図６】図５のVI-VI線に沿う断面図である。
【図７】従来のモップヘッドの一例を示す斜視図である。
【符号の説明】
【００２６】

Ａ	モップヘッド
Ｂ	モップ材
１０	モップ材支持板
１０ａ	主部
１０ｂ	副部
１１	凹部
１２	回動部材
１２ａ	連結板
１３	係止部材
１４	支軸
１５	規制部材
１６	リブ
２０	フランジ部
３０	柄体
３１	連結板
４０	基布
４１	拭き取り片
４２	ポケット

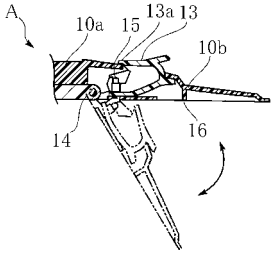
【図１】



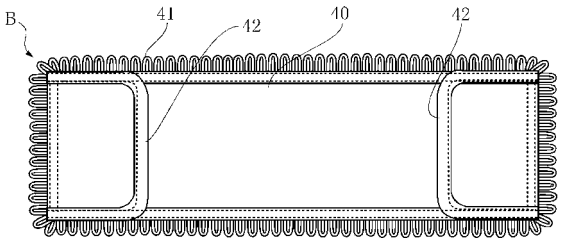
【図２】



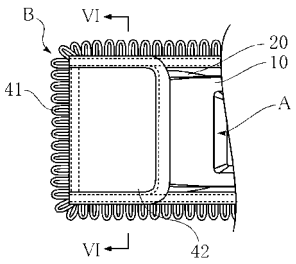
【図３】



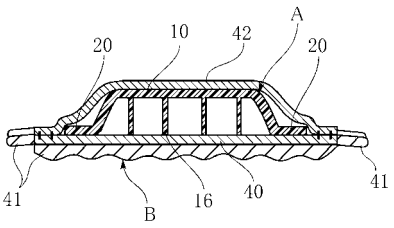
【図４】



【図５】



【図６】



【図７】

